

氏名	中 原 東 亜
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1 1 5 1 号
学位授与の日付	昭和 55 年 12 月 31 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	腎移植患者におけるTリンパ球 (total T, active T) monitoring の臨床的意義 一特に急性拒絶反応と肺感染症を 中心として一
論文審査委員	教授 大藤 眞 教授 寺本 滋 教授 大森 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

腎移植患者の免疫学的動態とくに急性拒絶反応を早期に予知或いは診断することが、移植腎の障害を軽くするばかりでなく、その後の合併症の危険を少なくすることにもつながると考え、腎移植前後における末梢血の total Tリンパ球及び生物学的活性を有するといわれる active T リンパ球を経時的頻回に測定し、その推移について検討し下記の成績を得た。

腎移植後経過良好例では、移植直後より total T, active T 比率の著明な低下がみられ、とくに active T の低下が強く遅延する。

急性拒絶反応発症の 4～9 日前より total T, active T は有意に上昇する。又肺感染症発症のかなり前より T リンパ球レベルの低下が続き、active T の低下が著明である。

active T 比率は測定操作が簡単で、短時間で結果が判明し、宿主の免疫能を鋭敏に正確に反映する。total T 比率と共に腎移植患者の有力な免疫学的指標となりうる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は腎移植患者における T リンパ球 (total T, active T) monitoring について臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかった急性拒絶反応および肺感染症に対する免疫学的指標について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。